紫波ネット

SHIWA NET

発行／岩手県紫波町　編集／企画課

目　次　CONTENTS

藤原町長　新春のごあいさつ…… 2

今号のトピックス
「えこ3ぷらん（エコ・さん・プラン）」で
豊かな郷土…… 4

番外編

産直発・旬を味わう

平成11年度クッキング・コンクール作品

小正月はこれでもてなし「もち寿司」

平成11年度クッキング・コンクール最優秀賞作品の最終回は星山の作山幸子さん（左写真）のご飯ではなくもちを使ったのり巻き風「もち寿司」。

2000 1
No.543

「我が町を知る」「我が近隣を知る」「我が将来を知る」ための総合広報

「ケーキより、どうしても団子とかが好きなもので‥」と話す作山さんですが、いただくと皆同様に「おいしい」と大好評。固くならない秘密は砂糖を混ぜるためだそうです。

❶砂糖に少量の水を加え、火にかけながら溶かします。溶けたら熱いうちにうるち粉に混ぜ合わせます。

❷もち粉に水を加えて耳たぶ程度になるようこねます。できあがったら❶を加えてさらにこねます。

❸蒸し器にふきんを敷き、こねあがった❷を10分程度蒸します。蒸しあがったら形を整えておきます。

❹巻きすにノリを敷き、青ジソ、ダイコンとニンジンのみそ漬け、ダイコン菜、梅肉を巻きます。さらに❸で周りを巻きます。

❺さらにノリで巻き、4等分に切って中の具が見えるように盛りつければできあがりです。

もち寿司　※もち粉150g／うるち粉80g／砂糖60g／ノリ4～5枚／青ジソ6～7枚／梅肉、野菜類（基本的には何でも可）／塩・水少々

新年あけましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては二〇〇〇年という新ミレニアムの幕開けを、穏やかに迎え過ごされていることとお喜び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、本年四月から始まる介護保険に備え、長寿健康課を新設するなど役場の機構を大幅に見直しました。また三月には総合交流ターミナル施設（産直センターあかさわ、果里ん亭）、六月にラ・フランス温泉研修産業館（湯楽々＆交流プラザ紫波）、九月に勤労者総合スポーツ施設（サン・ビレッジ紫波）がそれぞれオープンし、産業、保養、スポーツと施設の充実に力を入れた一年でもありました。

さて、このように施設の充実も大切な課題でありますが、われわれが二十一世紀に生きる子どもたちに胸を張って伝え遺せるものとは、本物の豊かさとは一体何でしょうか。

それは自然環境にほかならないと思います。お金で買えないもの、そして一度破壊されるとその回復には気の遠くなるような時間のかかるもの、それが自然環境です。今ここで真剣に取り組み、対策に乗り出さなければならない重要な課題と考えます。

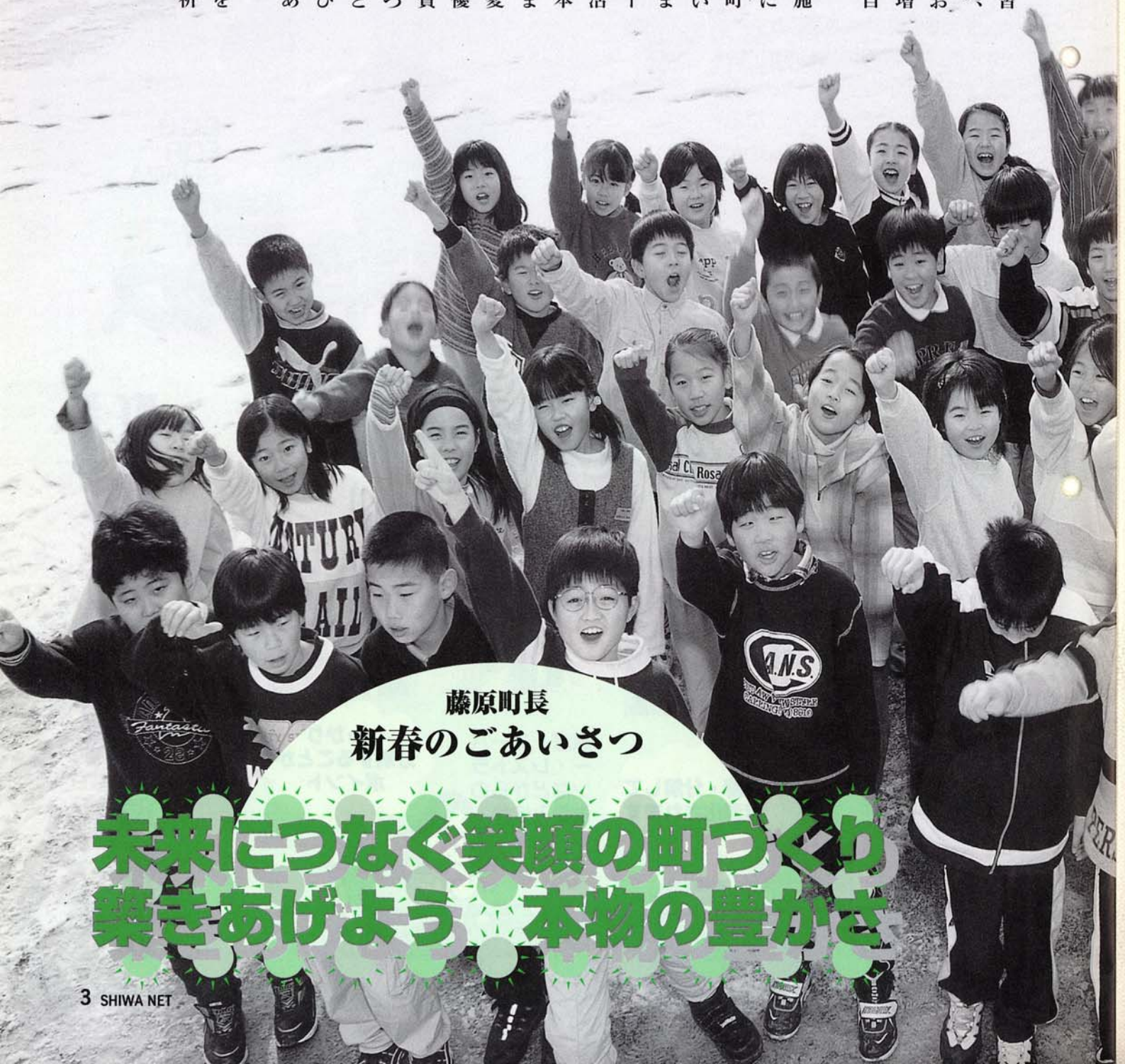
二十世紀、特に戦後は消費の時代と言っても過言ではありません。大量生産、大量消費、そのことにより産業はめざましい発展を遂げました。いつでも欲しいときに欲しい物を気軽に手にすることができ、皆が物の豊かさを実感し、それが当然と考えるようになりました。

2000年新春のごあいさつ　日詰小学校校庭にて（3年生の皆さんと藤原町長）

しかし、一方では物があふれ、物を大切に扱う習慣や愛着などが薄れてきているように感じます。また、あふれた物はごみとして出され、その処理に莫大なお金がかかるようになりました。しかもその額は年々増え続けています。ごみの減量化と有機資源の利用は自然環境保全の上でも重要な課題であります。

わが町では四月に「ごみのポイ捨て禁止条例」を施行し九カ月経過しましたが、自主的に町をきれいにしようというボランティア団体が結成されるなど、町民の意識の変化が確実に現れ、その効果を実感しているところであります。また、現在策定を進めております有機資源循環計画（えこ3ぷらん）は家庭やスーパーなど業務用の生ごみを全面的にたい肥として活用し、農作物の有機栽培を行おうとするもので、日本環境財団のご指導をいただきながら進めてまいります。「環境と福祉の町」を目指す紫波町にとって大変重要な施策であります。次代を担う子どもたちに優良な環境を維持し、その中で作られた安全で、良質な農作物を贈る。これが子どもたちの健康増進につながり、ひいては活力ある町に必ずや結びつくものと信じております。この計画の実現には皆さま一人ひとりのご協力と環境保全に対する意識が不可欠であります。

本年も紫波町の発展のために全力を尽くすことをお誓いするとともに、町民の皆さまのご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



藤原町長
新春のごあいさつ

未来につなぐ笑顔の町づくり
築きあげよう　本物の豊かさ

人にも 地球にも 未来にも
やさしい町づくり

「えこ3ぷらん（エコ・さん・プラン）」で豊かな郷土

環境の世紀といわれる21世紀まで、あとわずか。今や地球環境の問題は、私たちの暮らしに密着したテーマとなりました。「環境と福祉の町」を標ぼうする紫波町にとって、心とからだの健康づくりは欠かせません。人間が健康に生きるためには、地球も健康でなければ。そのためには、私たち人間が環境に配慮した生活をする必要があるのです。今回は、町で現在策定を進めている有機資源循環計画についてお知らせします。

ECO FOR SHIWA
有機資源循環計画

今号のTopics（トピックス）

あなたのやさしさが〝環境〟を作ります
町が目指す「有機資源循環」の流れ

生ごみの収集（右写真）のあとにたい肥化（左写真）されます

生ごみ以外出さないことを徹底する必要があります

収集車で回収し、土づくりセンターでたい肥化

発酵・分解して資源化されます

家庭・スーパー・レストランなどからの生ごみほか

しっかり分別することがポイント

町の特色を生かした計画

これまで町では、盛岡市の旧都南村地区・矢巾町とともに、生ごみの分別収集に取り組んできました。家庭用の生ごみについては、ほぼ一〇〇パーセントたい肥化し、有機資源として活用しています。

しかし、食堂やレストラン、給食センター、スーパーといった業務用の生ごみについては、焼却処分しています。これらの有機性廃棄物を活用できないものか。それが、現在作業を進めている有機資源循環計画「えこ3ぷらん」策定のきっかけです。

ご承知のとおり、当町は県内でも有数の農業の町です。西部地区では、畜産を取り入れた複合型農業が行われていますし、中央部ではもち米の栽培、東部地区では果樹栽培が盛んに行われています。

また、今では町の特色となった産直センターも好評で、新鮮でおいしい農産物を求めて、近隣市町村から大勢の買い物客が訪れています。

有機資源循環計画は、こうした町の農業に対する信頼や期待を裏切ることなく、自然に恵まれた豊かな郷土の未来を築くことが目的です。

有機資源は地域内で活用

活用する有機資源には、一般家庭や事業所から出る生ごみのほか、畜産ふん尿やし尿汚泥、下水・集落排水汚泥などがあります。現在、これらは大方が焼却されていますが、それには多額の費用がかかっています。ひっ迫する町財政のなかで、増えつづけるごみを処理するには、どうすればよいのか。今回の計画には、長期的な行政コスト削減の期待も寄せられています。

たい肥化された有機資源は、どのように使われるのでしょうか。公園や緑地、農業公園といった公共施設のほか、水田や畑などの耕作地、家庭菜園やガーデニング用の肥料として、町内で広く利用することができます。これにより土壌改良が進んで土地が肥よくになり、安全で、よりおいしい農産物を生産することもできるようになります。

また、こうした運動を通して、町民の環境に対する関心が高まり、紫波町が基本としている自然との共生に向けた機運も、より高まることが期待されます。有機資源循環計画は、ごみ問題の改善や環境保全のためだけでなく、特色を生かしたまちづくりの指針でもあります。

皆さんの協力が不可欠

有機資源の循環を実現するためには、どうすればよいのでしょうか。

第一に計画を推進する横断的な行政の組織、第二に有機資源を集めたい肥化するシステムの構築、第三にたい肥化された有機資源を利用する環境の整備が必要です。

このうち、第一の横断的な行政組織としては、昨年五月、役場内に資源循環推進室を設けました。

第二・第三については、町民の皆さんをはじめ、町内の団体や企業の皆さんの協力が欠かせません。ごみの分別に始まり、回収→たい肥化→たい肥の利用→農産物の栽培→消費など、一人ひとりの取り組みに期待がかかります。

町の美しい自然と文化を後世に伝えるとともに、人にも自然にもやさしい町づくりを進め、豊かな郷土の未来を築くため、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

【有機資源循環計画推進委員座談会】

この美しい自然を子供たちに
有機資源循環で豊かな未来づくり

紫波町では、有機資源循環計画の策定にあたり、広く町民から意見をうかがうため、推進委員を公募しました。委嘱された委員は７人で、全員町内に住む主婦の皆さん。今回の座談会には、６人の委員が出席し、資源循環推進室の職員らも加わり、活発な意見が交わされました。

座談会終了後、日本環境財団のお二人とともに藤原町長を囲みにこやかな表情の推進委員の皆さん

町民の誇り
いち早く分別回収に取り組み

藤原町長（以下「藤原」）　お忙しいところご出席くださいまして、ありとうございます。今日は、町で策定を進めている有機資源循環計画について、皆様からご意見をうかがおうと、座談会を企画いたしました。どうか、率直なご意見をお聞かせください。

　町では、平成十一年四月一日から、ごみのポイ捨て禁止条例を施行しました。おかげさまで、町内外から評価をいただき、徐々に効果も表れています。今回の有機資源循環計画は、いわばその第二弾です。緑豊かな田園風景を、後世にどう残していくのか。その方法の一つとしての計画づくりです。平成十二年度はさらに調査・研究を重ね、十三年度から本格的にスタートしたいと考えていますが、そのためには住民の皆さんのご理解とご協力が欠かせません。今日の座談会を契機に、一人でも多くの方々にご理解いただければと考えています。

佗美洋子さん（以下「佗美」）　私が環境について意識するようになったのは、子どもが生まれ、子どもの将来を考えるようになってからです。今、二十一世紀を目前にして、世の中の価値観も変わってきています。自分さえ良ければ、という自己中心的な考えがまん延しているような気がしています。一人でも多くの方々に、次世代につなぐ環境を自分たちでつくるんだという意識を持ってもらえるような活動を期待しています。

八重畑祐見子さん（以下「八重畑」）　私は、環境問題をあまり大上段に考えるより、まずは自分にできることから始めることだと思っています。例えば、ペットボトルを回収するときなどは、子どもにも手伝わせています。ごみの分別なども一緒にやることで、子どもにも自然と身につくのではないでしょうか。言葉で伝えるだけでなく、自分が行動して子どもに見せる。住民一人ひとりの意識が変わらなければ実現できないことかもしれませんが。

大門博子さん（以下「大門」）　私は、五年前に盛岡市から引っ越してきました。正直なところ、転居先を選んだときは、環境よりも通勤に便利なことを重視しました。しかし、実際に住んでみて、環境のよさを実感しています。まわりに水田や畑があって、山や川がある。今、子どもが大きくなり行動範囲が広がって、山や川などで遊んでいます。子どもがのびのびと遊んでいる姿を見ながら、紫波町に住んでよかったと感じるようになりました。今になって、自然の大切さを実感しています。住みやすくなるのはありがたいことですが、今後は自然も残していかなければならないと痛感しています。ごみの分別に関して、紫波町に住むようになって初めて生ごみの分別を経験しました。一番困ったのは油の処理です。固めた油は、燃えるごみなのか、それとも燃えないごみなのか迷いました。ごみの分別について、もう少し詳細に知らせていただけたらと思っています。

熊谷育子さん（以下「熊谷」）　ちょうど学

【座談会出席者】

熊谷育子さん（片寄）
「食品のトレーを洗ってスーパーに返すとかできることから取り組んでいます」

大門博子さん（高水寺）
「紫波に引っ越してきて感じるのは自分が育った環境によく似ているというところです」

八重畑祐見子さん（北日詰）
「大げさに考えるより、まずは自分自身で行動することが大切だと思っています」

侘美洋子さん（日詰）
「子どもが健康で、心豊かに生活できる環境づくりについて日ごろから考えています」

阿部礼子さん（星山）
「恵まれた自然を便利なだけで破壊することがないように守っていきたいですね」

葛章子さん（高水寺）
「まずは個人の中で意識を強めていくような取り組みが大切ではないでしょうか」

藤原孝町長
「自然豊かな紫波町で、安全でおいしい農産物を作りたい、それが願いなんです」

生時代に公害が大きな社会問題になり、水俣病などの話を聞く機会がありましたので、観念的には環境の大切さも理解していたつもりです。生活の中で現実問題としてとらえるようになったのは、子どもが生まれてからです。子どもの将来が素晴らしいものであってほしいと考えるようになったのです。具体的な行動としては、生協活動などを通じて、なるべく無添加の食品・添加物の少ない食品を購入するとか、合成洗剤をやめ石鹸に切り替えるとか、身近なところから始めています。私は紫波町出身ですが、十五年ほど町外で暮らしていました。盛岡市でごみをみな一緒に出していたころ、紫波町ではすでにびん・カンの分別をしていたのです。そのとき自分の生まれた町を誇りに思いました。

阿部礼子さん（以下「阿部」） 私も紫波町出身ですが、二年ほど東京に住んでいました。そのころ公害問題が盛んなときで、こちらでは当たり前と思っていた緑の自然と青い空が、東京タワーに上ってもスモッグで見えませんでした。そのとき初めて山が見たいと思ったものです。自然の環境が、いかに人間の心を豊かにするものか実感しました。紫波町に住み、以前の緑の自然と青い空の下に戻ったのですが、下の子がアトピーになったとき、また環境というものを考え始めました。改めて周りを見渡してみると、山にはごみが目立つようになっていました。大きな機械から家庭用の簞笥から、年々目につくようになりました。その意味では、ごみのポイ捨て禁止条例は素晴らしい取り組みだと思います。最近ではスーパーなどでも買い物袋を使わない人を見かけるようになりましたし、まずは自分でできることから始めたいですね。

葛章子さん（以下「葛」） 今回委員に応募して、ごみ処理に莫大な税金が使われていることを知りました。どうしたらごみを少なくできるのか、改めて食品トレーや紙パックの再利用という身近な取り組みが必要なことを痛感しました。そういったことを一人ひとり理解することが必要ですし、それが家族に広がり、地域へと広がっていけばよいのではないでしょうか。

有機資源の活用に抵抗感はありますか

藤原 今日お集まりいただいた委員の中には、農家の方もいらっしゃいますが、生ごみや家畜のふん尿を有機資源として活用することに抵抗はありませんか。

阿部 私のところでは、今でも家畜のふん尿を自家製たい肥として使っています。以前は鳥も飼っていたので、鶏ふんも良いたい肥になりました。ですから、抵抗はありません。むしろ、最近では牛を飼う農家が少なくなっているので、自家製たい肥が作れなくなってしまうのではないかと心配しています。

熊谷 農家といっても、自家用程度なので、あまり大それたことは申し上げられませんが、近所の産直では、お客さんから有機栽培の野菜はないかとよく聞かれるそうです。その話を聞いて、本気で生産すれば売れる、という実感がわいてきました。やはり直接消費者の声を聞くのは、いい刺激になりますね。

ECO FOR SHIWA
有機資源循環計画
今号のトピックス

大門　私は農家ではありませんが、農村に育ったので、人ぷんを使って農作物を栽培する光景を見てきました。化学肥料よりも自家製たい肥のほうがおいしい、という声も耳にしてきました。実際、ピーマンなども肉厚でシャリシャリしていますよね。ですから、抵抗はありません。

八重畑　かつて、母乳よりも脱脂粉乳が良いと言われた時期もありましたが、今では母乳の大切さが浸透しています。何が大切なのか、消費者が理解し選択できるよう、的確な情報を伝えることが必要だと思います。

佗美　農家とは無縁でしたが、生ごみや家畜のふん尿をたい肥として使うことに抵抗を感じたことはありません。むしろ、有機肥料を活用して土壌を改良しなくてはいけない、という気持ちのほうが強かった。商品には成分表がついていますね。それを見ると、含有量が年々下がっていて、危機感を感じています。最近では、子どもが本物の味を嫌がる、という話を聞きますが、小さいときから本物の味にふれていないとわからないのではないでしょうか。

葛　正直なところ、有機資源といっても、一部には抵抗感もあります。例えば、下水道の汚泥には、洗剤など有害なものが混じっているのではないかと、不安を感じています。

有機資源循環で町全体の価値を高めましょう

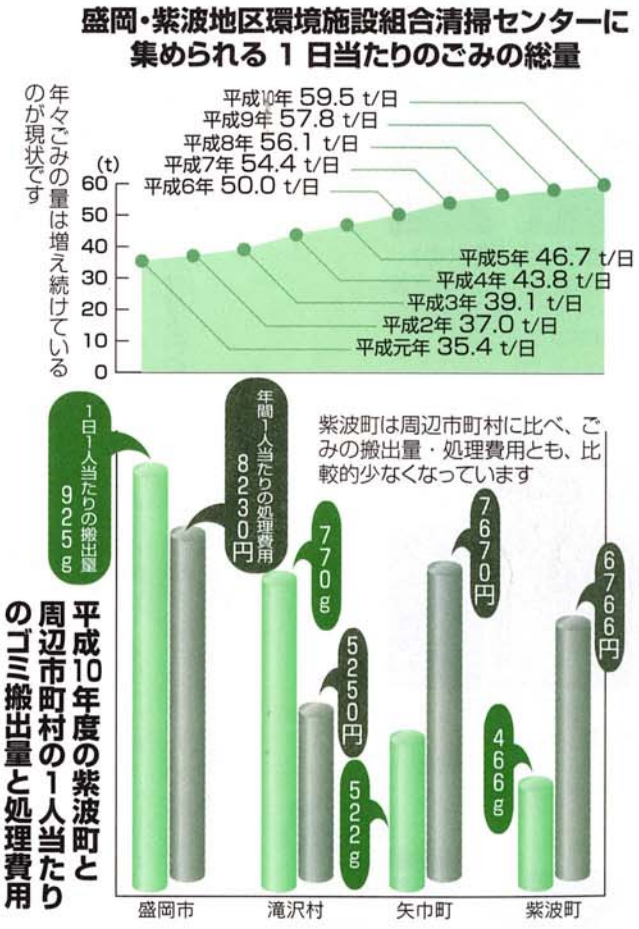
藤原　確かに、現時点では農業排水や下水道の汚泥には、不安があります。洗剤や化学肥料に含まれる有害物質が残留している可能性があるからです。しかし、計画を進めるうちに住民一人ひとりの意識が高まり、上流に住む方々のマナーが改善されれば、将来的には利用可能となるでしょう。この辺は、手順を踏んで進めていきたいと考えています。大切なことは、そうしたマイナスの要素も含めて、随時情報を提供することです。少しずつでも町民の理解と協力を得ながら進めていきたい。委員会の設置や今日の座談会も、そのステップだと考えています。

そもそも有機資源循環システムの導入を考えたのは、紫波町全体の付加価値を高めようと思ったからです。そのためには住環境を良くしなければならない。先ほど、阿部さんからお褒めの言葉をいただきましたが、ごみのポイ捨て禁止条例も、そういった趣旨から制定しました。特に、町の基幹産業である農業において付加価値を高めるためには、有機肥料を活用し、土壌を改良しなければなりません。また、有機肥料の活用は、安全な食糧供給や環境保護の観点からも有意義なことです。行政コストを考えても効果的です。現在、一トンの汚泥を処理するのに、一万五百円かかっています。それを有機肥料に替える。その際、生ごみ・食品残さといった家庭から出る廃棄物や家畜のふん尿などを混ぜ合わせながら良い肥料がつくれないか、と考えたのです。そして、今回の計画の実効性をより高めるため、総務課や企画課、農林課、生活環境課といった関係各課から成る庁内横断的な部署として、資源循環推進室を設けました。

佗美　二〇〇二年から学校完全五日制が導入されます。それに先駆けて、来年度から学習指導要領も変わり、総合的な学習が学校教育に取り入れられることになっています。私は、有機資源の循環を子どもたちの教育の場にできないかと考えています。今までは知識理解だけに終わった子どもたちが、生きる力を持って成長していく手立てとして、今回の計画がその一助になってくれればと思っています。

八重畑　ペットボトルやびん・カンなど資源ごみの分別回収をしていますが、実はリサイクルするにもお金がかかります。ごみ袋を有料にするとか、何らかの形で自己負担することが意識改革にもつながるのではないでしょうか。ごみを出すのに負担が求められれば、少しでもごみを減らす努力をすると思います。すべて役所にやってもらっているという感覚ではだめ。自分たちでやろうという意識を持つには、負担を求めることが一番の早道だと思います。

大門　紫波町に引っ越してきて、生ごみの分別を始めたときから、意識が変わり始めました。今回委員に応募して、食品トレーをスーパーに返すようになりましたが、それだけでごみが減るんです。それからというもの、お菓子の空き箱さえ小さく裂いて捨てるようになり、ごみ袋の数も少なくて済むように



なりました。すると、それがだんだん楽しくなってくるんですね。そういうところから始めていけば、環境保護にもつながっていくのではないでしょうか。

熊谷　これまでの話をうかがって、身の丈に合った生活が一番ではないかと感じています。自分の生活を振り返っても、確かに大量消費の時代がありました。自分たちの出したごみが自分たちの税金で処理されるということは、ごみを減らせばその分負担を少なくできるということ。身近なところで有機資源の循環ができるようになれば、身の丈に合った生活ができるのではないかと思っています。野菜などの農産物も身近なところから買ってきて、そのごみも身近なところで処理してもらう。自分自身の生活のスタイルも見直して、その中で豊かに楽しく暮らすことを考えたいと思います。

阿部　ある会議の席上、「役所と仲良しごっこをしていてはだめだ。役所と喧嘩をして、競い合って町が発展していくようでないとだめだ」と言われたことがあります。これまで、その言葉が頭に残っていました。役所にやってもらうだけだと、自分が参加しているという意識は持てませんよね。役所と一緒になって考えて、この町をつくって行こうという気持ちになると、自分自身の意識も変わってくると思います。だから役所と仲良しごっこをしていてもいいのではないか。今では、そう思っています。

先日、主人が新潟産のコシヒカリの新米を買ってきました。食べ比べてみたのですが、わが家でつくった米のほうがおいしい。友人にも、ホウレンソウがやわらかくておいしい、と言われたことがありました。普段食べ馴れていると分かりませんが、その辺が違うのかなと感じています。以前、子どもが通う学校にたい肥を差し上げたことがあります。たい肥をもらいにきた先生が、素手で完熟したたい肥をつかんでいる祖母を見て、感動していました。子どもたちに完熟したたい肥は臭くないんだということを、身を持って体験させたいと語っておられました。また、「子どもたちに生きる力を農業体験から学ばせている」という、都会から岩手の山村の農家に嫁いだ女性の手記を読んだことがあります。その女性は、子どもに一年生のときから牛の世話をさせた。自分が世話をしないと牛は生きていけないということを、身を持って覚えさせたというのです。そして、それを大学受験の前日まで続けさせたそうです。

今、私は子どもから自然の素晴らしさを学んでいます。子どもはカエルや虫が好きで、よく捕まえてきます。子どものときのそうした体験は、命の大切さや他人を思いやる心をはぐくんでくれます。そのためにも、子どもが安心してのびのびと自然とふれあえる環境づくりが必要だと感じています。

葛　私も委員に応募して、食品トレーの回収を始めた一人です。やはり、何よりも一人ひとりの自覚が大事ではないでしょうか。ごみ処理にどれだけお金がかかるかということも、もっと知らせたほうがいいと思います。土壌の大切さは、私も家庭菜園で実感しました。ネギやピーマン、ミニトマト、とうもろこし、ナスなど初めて作ってみたのですが、肥料をやらなくともおいしくできた。土の持っている力は偉大なんだと実感しました。

藤原　これまでのように農業を第一次産業としてだけとらえるのではなく、農業を環境産業、生命産業としてとらえ、有機資源の循環を環境教育の場としてとらえる。そういう環境づくりが、これからの町づくりの基本になると思います。ごみを処理することで与える負荷と、ごみを有機資源として土に還すことで与える負荷のどちらが大きいか。環境や健康、行政コストなどの多角的な視点から検討し、計画づくりを進めていきたいと考えています。今後とも町政へのご提言をお願いし、座談会を終了いたします。本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

紫波町と周辺市町村の収集方法

ほかの市町村では生ごみと可燃ごみを一緒に収集しているのが現状で、紫波町のようにたい肥化を実施している市町村は見あたりません。

※本表は各自治体が家庭に配布した「ゴミの出し方」を参考にして作成しました。

	紫波町	盛岡市	雫石町	滝沢村	西根町
可燃ごみ	●	● 一緒に収集	● 一緒に収集	● 一緒に収集	● 一緒に収集
生ごみ	●				
古紙	●	集団回収		●	
古着	●	集団回収		●	
紙パック	●	スーパーなどで収集		スーパーなどで収集	
空きビン	●	●	●	●	●
ペットボトル	●	●	●	●	●
空き缶	●	●	●	●	●
不燃ごみ	●	●	●	●	●
燃えがら	●	電話連絡	●	●	電話連絡

計画のアドバイザー・日本環境財団から
（左・河野樹夫所長／右・川上群蔵主任研究員）

座談会に出席して驚き感心したのが委員の方々の活発さ。また町の考え方が町民に浸透していると感じました。日本初のシステムですので共に歩みすばらしいものにしたいです

まちの話題から

まちで見つけた話題を
写真とともに紹介します

紫波雅玄会と紫波童謡の会の皆さんによる童謡も披露されて

あらえびす記念館で文化の香り漂う催し

県教育委員会などが主催する岩手芸術祭移動公演が、十一月十八日野村胡堂・あらえびす記念館で行われ、集まった約百六十人は琴や尺八の厳かな音色に耳を傾けていました。また、ゲスト出演した地元の紫波雅玄会（琴）や紫波童謡の会のメンバーと、たきびを合唱するという楽しい場面もありました。

十二月十一日には日詰出身の佐藤寿美恵さんらによるクリスマスコンサートが同記念館で開催されました。会場には多くの家族連れが訪れ、集まった人たちはトランペットが奏でる軽快なクリスマスソングやトロなどの曲を楽しみました。

すばらしい演奏で楽しませてくれた右から
今野洋子さん、佐藤寿美恵さん、菊池得子さん

交流プラザ紫波でソーセージ作りに挑戦

町では都市農村交流の一つとして十一月二十六日「紫波町まるごと体験わくわくツアー」を開催しました。参加したのは盛岡市周辺の主婦など二十三人、午前中に野村胡堂・あらえびす記念館など町の観光施設を見学し、午後からは六月にオープンしたラ・フランス温泉研修産業館の一階「交流プラザ紫波」で町の地場産品を使った農産加工を体験しました。この日は熊谷泉さん（片寄）を講師に迎え、ソーセージづくりに挑戦。出来上がりを食べた参加者からは「おいしい」との声があがり、満足げな様子でした。

町では今後も交流プラザ紫波で定期的に講座を開催する予定です。またグループでの利用も可能です。

熊谷さんの説明を真剣な表情で聞く参加した皆さん

税の大切さ作文で表現 町内の中学生が大健闘

税の大切さを改めて考えてもらおうと、全国納税貯蓄組合が主催し中学生の税の作文コンクールが毎年行われています。今年は町内から次の五人が入選しました。

紫波第二中学校三年　阿部央さん　東北地区納税貯蓄組合連合会長賞

紫波第二中学校三年　北田詩織さん　盛岡税務署長賞

紫波第一中学校三年　菅原典子さん　岩手県納税貯蓄組合連合会長賞

紫波第三中学校三年　須川悠衣子さん、二年　鷹觜直佑さん　盛岡地区納税貯蓄組合連合会長賞

百日間、無事故無違反 好成績のチーム続出

紫波町交通安全コンクール「チャレンジ一〇〇しわ」の表彰式が十二月十一日総

盛岡税務署長から賞状を受け取る阿部央さん

合福祉センターで行われ、五人一組で百日間無事故無違反に挑戦した九十一チームのうち、八十三チームが目標を達成し表彰されました。これは実施した県内十四市町村の中でも九〇パーセントを超える好成績で、今後の事故防止に大きな力となることが期待されます。

受賞したのは次のチームの皆さんです。なお複数チームを出している団体もあります。

ロータス深澤、小田島鉄工所、大同電気、(有)高橋木材、佐々木製作所、東北銀行紫波支店、ナックス、(有)戸塚自動車工業所、(有)小松組、(有)スカイテック、佐々木建設、(有)川村電工、三陸石灰(株)、(株)西川電業、後庵、(有)新和自動車整備工場、八重畑木産(株)、岩手保育学園、西長岡おばちゃんの会、紫波交通安全協会、交通安全母の会(日詰、古館、志和、赤石、彦部、赤沢)、橘建設(株)、岩手中央森林組合南部支所、日詰小学校、紫波消防署、岩手中央農業協同組合、役場

「これからも無事故無違反を」と誓いも新たに

「事故に気をつけてね」元気に交通安全宅配便

「道路が滑るので気をつけて」かわいい宅配便ににっこり

水分小学校(伊藤祝雄校長、児童百十六人)では交通少年団の結成から二十年になることを記念し、六年生の児童十九人が十二月十六日地区のお年寄りの世帯を訪問し、交通安全を訴える交通安全宅配便を行いました。同小学校の屋内体育館で行われた出発式の後、六つの班に分かれた子どもたちは、PTAや交通安全母の会の人と一軒ずつ家庭を巡回し、靴に反射材を張り、「明るい色の服を着て」などと声をかけ交通安全を呼びかけました。また交差点での事故防止の呼びかけも行われました。

介護保険、子育て支援など充実した懇談会

十一月十五日から二十二日にかけて町内九会場で地域福祉懇談会が開催されました。この懇談会は福祉の町づくりに多くの意見を反映させようと紫波町社会福祉協議会(阿部信男会長)が毎年開いているもので、今回は三百人を越える参加がありました。町からも長寿健康課、生活環境課の担当職員が出席。間近に迫った介護保険制度の内容や、保育所の広域利用、チャイルドシートのレンタル制度など子育て支援についての関心が高く、参加した人からは熱心な提言が出され充実した懇談会となりました。

熱心な提言が出された水分公民館での懇談風景

懐かしい味に舌つづみ東京でふるさと会集合

首都圏に住む町の出身者で組織する「紫波町ふるさと会」(渡邊恭三会長、会員七百二十人)の総会が十一月二十日、東京都台東区の池之端文化センターで開かれました。総会では新役員四十人の選任決議や十月に開催した町との協賛事業「ヤッホーいわてフェア」の事業経過などが報告されました。

総会終了後の懇親会では、「紫波ひめ隊」が豪快なもちつきパフォーマンスを披露。調理されたクルミやあんこもちが配られると、会員はその懐かしい味に感動している様子でした。また紫波町内の企業から提供された地元産品による福引抽選会も行われ、会場内は詰めかけた二百人の熱気に包まれていました。

ふるさとのもちに自然と笑みが

情報掲示板

新エネルギーの補助制度説明会

県企画振興部資源エネルギー課と地方振興局総務部企画振興課では、新エネルギー（太陽光発電・真空式ソーラー温水システム・氷蓄熱式空調システム・クリーンエネルギー自動車）の導入に際して受けられる公的補助制度の説明会を開きます。新エネルギーに興味のある人や事業所が対象になります。

日時	1月28日（金）　午後1:30～3:30	
内容	地球温暖化と新エネルギーの説明／新エネルギーの仕組みと公的補助制度（太陽光発電・真空式ソーラー温水システム・氷蓄熱式空調システム・クリーンエネルギー自動車）／質疑	
会場	盛岡地区合同庁舎 ☎651-3111	花巻地区合同庁舎 ☎0198-22-4911

伊達公子さんのキッズテニス教室

スポーツフェスタ in 紫波

夢多き子どもたちのために、紫波勤労者総合スポーツ施設「サン・ビレッジ紫波」で伊達公子さん指導によるテニス教室を開催します。世界ランカーとして四大大会で活躍してきた伊達さんが直接指導してくれるチャンスです。ぜひご参加ください。

- ▶日　　時　2月26日（土）　午後12:45～5:40
- ▶場　　所　紫波勤労者総合スポーツ施設
- ▶講　　師　伊達公子さん（ヨネックスアドバイザー）
- ▶対 象 者　町内の小学4年生以下の児童120人（一般見学者300人）
- ▶申込期間　1月20日（木）～31日（月）　先着順
- ▶申込・問合せ　企画課商工労政係　☎672-2111　内線326　有線01-8891

新しい世紀をより健康に過ごすため

紫波町民健康講座のご案内

問合せ　保健センター保健係　☎672-4522　有線01-8991

町では皆さんの関心事である少子高齢化をテーマとした「紫波町民健康講座」を開きます。各界の皆さんに貴重な講演をしていただきますので多数のご参加をお待ちしています。

▶場所　保健センター

※希望する講座のみの受講も可能です。

※詳しくは保健センターにお問い合せください。

【テーマ】少子高齢社会、みんなの知恵と力で支え合いましょう

回数	月日	時間	講座内容	講師
1回目	1月22日（土）	午後1:30～1:40	オリエンテーション／開講式	
		午後1:40～2:10	【2000年「紫波町」の課題】	紫波町長　藤原孝
		午後2:15～3:30	【広げよう　ボケへの理解】一座による寸劇を交えた講演	「気仙ボケー座」の皆さん 痴ほう性老人グループホーム「ひまわり」所長　内出幸美さん
2回目	1月29日（土）	午後1:30～2:25	【医者の目で見た生活習慣病】	町医師団代表　直島武夫さん
		午後2:35～3:30	【健康は何よりの財産】	盛岡赤十字病院名誉院長 川村隆夫さん
3回目	2月5日（土）	午後1:30～3:15	【家族の風景　夫婦親子の日米比較】私の子育て紹介	盛岡イングリッシュアカデミー 取締役部長　坂本ロビンさん
		午後3:15～3:30	閉講式	

こちら、岩手ナチュラル百貨店

岩手の観光シンボルマーク募集中

県では平成11年に決定した県の観光キャッチフレーズ「こちら、岩手ナチュラル百貨店」にふさわしいシンボルマークを募集しています。

▶**応募規定**　用紙はB5判以内で、彩色、画材自由。CGも可（用紙に印刷したものに限る）。1作品につき用紙1枚を使用し、作品には天地を明記。応募点数に制限はありません。

▶**応募方法**　作品の簡単な説明と住所、氏名（ふりがな）、男女の別、年齢、電話番号、職業（学校名）を明記の上、ハガキまたは封書でご応募ください。

▶**募集期間**　2月4日（金）まで　※当日消印有効

▶**応募先**　〒020-8799 盛岡市中央郵便局留　岩手県観光シンボルマーク募集係

▶**問合せ**　（株）盛岡博報堂内岩手県観光シンボルマーク募集事務局 ☎624-6360

今年の栄冠はどのチームに

紫波町高齢者スポーツの集い＆第20回紫波町輪投げ大会

恒例となった教育委員会主催の「平成11年度紫波町高齢者スポーツの集い＆第20回紫波町輪投げ大会」が開催されます。昨年は71チーム、450人が参加という大盛況振りでした。今年も多数のご参加をお待ちしています。

▶**期　　日**　1月27日（木）
▶**時　　間**　午前9:30から
（受付午前8:30から）
▶**場　　所**　総合体育館
▶**指 導 者**　社会体育実技指導員
佐藤淳子さん
（高齢者スポーツの集い）
▶**参加資格**　各老人クラブ単位で受付
▶**申込期限**　1月16日（日）まで
▶**問 合 せ**　総合体育館
☎676-2650
有線 01-3151

気をつけて! 灯油漏れの水質汚濁事故

本格的な冬となり、灯油を燃料とする暖房器具もフル回転。最近そのホームタンクから灯油が漏れ出し、河川に流出する事故が多発しています。いずれも給油や移し替えの際に目を離したり、パイプの破損など、ちょっとした油断が原因となっています。

もし、河川に灯油などが流出すれば、環境破壊はもちろん、処理のため多くの費用が発生します。この費用は原因者の負担となりますので、一般家庭・事業者と十分注意し、器具の管理を徹底しましょう。

善意の窓

◆水分地区社会福祉協議会（高橋節也会長）は座卓3台を水分公民館へ

◆株式会社北日本銀行はビデオテープ1巻（きたぎんスペシャルパート2・いわての人物史3）を野村胡堂・あらえびす記念館へ

◆紫波町民謡同好会・紫波町芸能保存会は300,000円を町へ

◆広友リース株式会社盛岡出張所はスチール製ごみ箱24個を町へ

◆岡崎俊子さん（桜町）は100,000円を町へ

◆吉田昌暉さん（東京都練馬区）は20,000円を町へ

◆下脇良夫さん（北日詰）は桜1本を東ノ坊幼児公園へ

◆東北電力株式会社盛岡営業所・ユアテック株式会社盛岡営業所は街路灯（40w水銀灯）13灯を町へ

みんなの施設、いつまでも大切に

皆さんの寄付による誓願駅として開業した紫波中央駅ですが、昨年の春から隣接する自転車置き場の窓ガラスが壊されたり、トイレに落書きをされたりといったいたずらが目立つようになりました。一部の心ない人のいたずらに町では対策に苦慮していましたが、このほど紫波塗装工業組合（藤城和範組合長、12事業所）による塗装作業奉仕が行われました。また利用者の有志によるボランティアサークル（谷地充代表、15人）が結成され、清掃奉仕も行われています。このように町民一人ひとりの自主的な活動は、「ごみのポイ捨て禁止条例」施行の町としても、環境に対する意識の高さを示すものでたいへんすばらしいことです。一方で公共施設を壊したり汚す人がいることも事実で、たいへん残念なことです。公共施設は皆さんの税金で作られ運営されています。いつまでも大切に使いましょう。

＋献血ありがとう＋

	200mℓ	400mℓ
12月3日【全血献血】		
JAいわて中央本所	1人	6人
JAいわて中央古館支所	2人	2人
株式会社東北TKR	5人	5人
タケダスポーツ盛岡南店	2人	4人
12月21日【全血献血】		
JAいわて中央志和支所	4人	9人
岩手ニッカン株式会社		6人
マックスバリュー紫波店	3人	7人

2000年世界農林業センサスにご協力をお願いします

農林水産省では、2月1日現在で世界農林業センサスを実施します。農林業センサスは、全国のすべての農家、林家など農林業を営む事業体のほか、農業・林業サービス事業体、農業集落、林業地域を対象として行う極めて大規模な調査で、「農林業に関する国勢調査」ともいうべき大切な調査です。この調査により、農林業の実体を明らかにし、国、都道府県、市町村はもちろん、各方面にわたり広く利用できる総合的な統計資料を得るために実施されます。皆さんのご協力をお願いいたします。

農林水産省・岩手県・紫波町

保健センターだより

スキンシップで子育て

最近、育児に不安を抱いているお母さんや子どもの遊び場を求めているお母さんが増えているようです。子育ては育児書どおりにいかないもの。特に初めての赤ちゃんというお母さんは、心配やいら立ち、戸惑いも多いことでしょう。悩みを一人で抱えず、周りの人の手を上手にかりましょう。以前紫波ネットでも紹介しましたが、各種育児サークルを結成し、活動しているグループもあります。参加してみてはいかがでしょう。

また保健センターでは毎月乳幼児相談を行っています。毎回約70人のお母さんが来所しますが、その中の育児コーナーでは絵本の読みきかせの時間を設けています。絵本の楽しさを知っていただくことはもとより、絵本を通して親子のつながりを深めるちょっとしたコツも紹介しています。

毎日の生活の中で、少しの時間でも親子で一緒に遊ぶ時間、ふれ合う時間が大切です。親自身が健康で余裕を持って子どもに接すると子どもも自然と笑顔になります。相談日の日程は家庭に配布している乳幼児カレンダーをご覧ください。

◆問合せ　長寿健康課 ☎672-4522　有線 01-8974

スキンシップを大切に親子で楽しみましょう

鏡に顔や物を映してみる　飛行機　おしくらまんじゅう

国民年金コーナー

Q 私は妻と二人暮らしですが、老齢厚生年金の収入だけで生活しています。税金はどれくらいかかるのでしょうか。（62歳・Kさん）

A 年金の収入が1，438，666円以下の場合は、均等割の非課税基準により町県民税は課税になりません。

老齢や退職のためにもらう年金は、所得税上は雑所得として取り扱われ課税の対象になります。Kさんの場合年金の収入額が分かりませんが、所得額の計算は右のとおりになります。

所得額から医療費、健康保険料、生命保険料、損害保険料、配偶者控除、扶養控除、基礎控除を差し引いた額が課税の対象になります。

◆問合せ　町民課年金係 ☎672-2111　内線 146、147
有線 01-8900

※ 65歳未満の人の所得額算出表

収入額（A）	割合（B）	控除（C）
700,001円～1,299,999円	100%	700,000円
1,300,001円～4,099,999円	75%	375,000円
4,100,000円～7,699,999円	85%	785,000円
7,700,000円～	95%	1,555,000円

計算方法（A）×（B）—（C）＝所得額

介護と医療

新春号から始まった「介護と医療」。今年4月からスタートする介護保険制度や高齢者の医療、老人保健について、長寿健康課と町民課から月ごとにテーマを決めて紹介していきます。

まず1回目は、介護保険についてです。皆さんが介護保険のサービスを受けるためには、最初に「認定申請」をしなければなりません。介護保険の場合、加入していればすぐに役立つということにはならないのです。どのくらいの介護が必要なのかを判断して、その程度に応じてサービスが提供されることになっています。

今年10月から受付が始まった介護保険の認定申請は、12月20日までで313件になりました。また、この間に50人の皆さんが相談に訪れています。

長寿健康課では、混雑して皆さんに迷惑がかからないよう、あらかじめ地区ごとに申請するようお願いしています。ただし、4月からサービスを受けるためにも、できるだけ2月までに申請を済ませてください。認定まで約1ヵ月の期間が必要になるからです。

具体的には下の表に示した受付日程になりますが、この時期に都合がつかない場合は、期間中の都合の良い月においでください。また、急に入院してしまったなどといった場合には、お気軽にご相談ください。

◆問合せ　長寿健康課 ☎672-4522　有線 01-8974

介護保険　認定申請　受付日程

10月	日詰、古館
11月	古館、水分、志和
12月	志和、赤石
1月	**赤石、彦部、佐比内、赤沢、長岡 施設入居者（特別養護老人ホーム）**
2月	**彦部、佐比内、赤沢、長岡 施設入居者（特別養護老人ホーム）**
3月	**町内全域**

まちのぶんげい

俳句【吉田一路・選】

秀逸　福寿草わが還暦の二千年
（佐比内）高橋　順子

評　還暦は年を取り淋しいが、六十年も生きて来ためでたい祝事。大きな節目の西暦二千年。福寿草はそれらを象徴する。

佳作　道の駅綻び初めし福寿草
（赤　沢）吉田　耕人

佳作　福寿草家族のことくひと群れに
（中　島）大原　秀子

入選　地に低くほんのり福寿草明りかな
（上平沢）斎藤　静子

入選　福寿草置かれ祝ひの席に着く
（上平沢）城戸美江子

入選　水墨画福寿草には黄を入れぬ
（土　館）畠山　敦子

入選　お点前の和服姿や福寿草
（犬　渕）一戸　一秀

入選　福寿草日差しをつれて鉢移す
（南伝法寺）熊谷やえの

入選　名も知らぬ山里随所に福寿草
（南伝法寺）兼平よしえ

入選　石に添ひ鉢にもなじみ福寿草
（東長岡）稲垣　恵香

入選　寮の子と見る膨らみし福寿草
（犬吠森）小野寺礼子

題　二月＝白鳥　三月＝氷柱

短歌【菅原照子・選】

特選　威し銃響く山田に朴の木は幹堅固なる夕影を曳く
（二日町）千葉　英雄

評　稔った山の田に雀らをおどす銃の音が響く。そして周辺に立つ朴の木が夕暮の影を曳いているという。感覚、的確な表現の一首。

秀逸　秋仕舞の手許に迫る夕闇の中に声する鳥見んと追ふ
（犬吠森）加藤　アイ

評　秋仕舞をする手許が見えにくくなってきた夕ぐれ、鳥の声がして声の方を見ても闇で見えないがその方向を見ている様が映る。

佳作　堤防に乱れつつ咲く泡立草枯色の中にその色褪せず
（佐比内）高橋　順子

佳作　本見つつ日日を生きをり冬の日は忽ちにして夕闇の濃し
（中　島）山崎　将美

佳作　入院の夫をおきて去りがたく出づる涙をこらへ帰り来
（土　館）畠山　敦子

川柳【熊谷岳朗・選】

特選　ぷくぷくと焼けております紫波の餅
（北日詰）北見　城山

評　紫波のモチ米は逸品である。

秀逸　餅好きの家庭に杵の音残る
（片　寄）畠山　勇子

秀逸　餅こねる祖母の姿は今はなく
（上松本）鱒沢　郁子

秀逸　相取りの声なく機械で餅ができ
（日　詰）内川　茂子

佳作　日本一めざして餅を食べている
（星　山）半田　浩美

佳作　寝正月餅をたんまりつきました
（日　詰）葛岡ヒデ子

佳作　アン・クルミ孫の好物迎え餅
（長　岡）工藤　朝子

佳作　歳ゆえか餅搗機なぜ立ち止まる
（東長岡）半田　さち

佳作　月に行きうさぎといっしょに餅をつく
（片寄小五年）畠山　知代

佳作　お供え餅曲った指がエクボつけ
（上平沢）生内アイ子

佳作　紅白の餅が縁起をかついでいる
（南伝法寺）細川　清一

題　二月＝厳しい　三月＝靴

あなたの作品をお寄せ下さい。毎月20日までにハガキで役場広報まで。

人口の動き

◆平成11年12月31日現在（前月比）◆

人　口	33,446人	（＋23人）
男	16,067人	（＋16人）
女	17,379人	（＋　7人）
世　帯	9,367世帯	（＋17世帯）

●1年前は（今年との差：増分）

人　口	32,840人	（606人）
男	15,805人	（262人）
女	17,035人	（344人）
世　帯	9,068世帯	（299世帯）

慶弔コーナー

平成十一年十二月一日から三十一日までの受け付け分から、町に住所のある人を届け出の順に掲載しています。

お誕生おめでとう

氏名	（住所）	届出人
菅原　黎明（あさひ）	（紫波中央駅前）	寿
佐藤　優華（ゆうか）	（平　沢）	和美
高橋　孝希（こうき）	（土　館）	修
藤原悠記也（ゆきや）	（中　島）	信一
熊谷　祐香（ゆか）	（犬吠森）	尚幸
伊藤　沙知（さち）	（桜　町）	完五
藤沼　琴音（ことね）	（北日詰）	剛彦
佐藤　巧（たくみ）	（二日町）	広行
山上　志乃（しの）	（桜　町）	幸生
名郷根　萌（めぐみ）	（桜　町）	和憲
藤原　直輝（なおき）	（佐比内）	定夫
佐藤　縁（えにし）	（平　沢）	淳
菅田　輝樹（てるき）	（赤　沢）	雄一
田中舘希帆（まれほ）	（中　島）	忠
村上　航史（こうし）	（紫波中央駅前）	隆宏
高橋　芳美（よしみ）	（日　詰）	仁
岩清水愛理（あいり）	（犬　渕）	英文
吉田　凌野（りょうや）	（日　詰）	誠毅

結婚おめでとう

氏名	（住所）	届出人
森田　修	（宮古市）	繁
下本　桂子	（高水寺）	昇
熊谷　文幸	（高水寺）	幸吉
工藤　悦子	（中　島）	祐司
大森　秀樹	（宮古市）	愼市
吉田　夏生	（遠　山）	茂美
佐々木　洋	（桜　町）	道夫
大森　美香	（桜　町）	秀悦
佐々木恵介	（釜石市）	弘吉
藤原　丈子	（日　詰）	洋一

おくやみ申上げます

氏名	（住所）	届出人
細川ヨシ子	55（宮　手）	二夫
太田代常武	76（大　巻）	常嘉
渡辺　キエ	78（日　詰）	信夫
滝浦美恵子	80（南日詰）	一雄
小田中敏雄	77（日　詰）	哲夫
阿部　功	92（犬吠森）	博之
高橋　隆一	83（上平沢）	恒行
坂本　エサ	86（升　沢）	功
中川善右エ門	92（北日詰）	昭
見當　市郎	76（二日町）	清一
畠山　敬一	75（片　寄）	ツヨ
畑山　晒吉	71（佐比内）	正志
佐々木ヨネ	76（桜　町）	福次郎
簇福　芳吉	77（日　詰）	生
箱崎千栄子	41（北日詰）	悟
佐藤トミエ	76（上松本）	幸雄
中田　慶一	72（佐比内）	榮一
玉山　誠一	48（平　沢）	清子
松坂　マサ	79（佐比内）	二三男
川村政次郎	83（片　寄）	金一郎
熊谷　晶	44（彦　部）	キヨ

R100 古紙配含率100%再生紙を使用しています。

二十一世紀のための 新・紫波風土記

奥州街道のマツの前にて——これからの道について思う

——南部藩二十八代に当たる重直は、参勤交代で使用する奥州街道の整備に力を注いだ。道路幅を三間（約五・五メートル）に広げ、道路の両脇にはマツの木を植樹、そしてできる限り直線に近い状態にした——

当時、盛岡から江戸までは参勤交代で十二～十五日、飛脚でさえも九日はかかったとその資料は結んでいた。現代なら大旅行ともいえるその道のりが、簡単なものではなかったことは誰にでも分かることだ。

その当時を知る歴史の証人は今でも国道四号を見下ろすようにそびえているマツの木だ。徒歩から馬へ、そして自動車が激しく往来する時代になっても変わらぬ姿でたたずんでいる。

道——新世紀へ続く道程はどのようなものなのだろう。想像できない未来だが、一つだけマツの木は教えてくれる。歴史や時代は変わっても自然は変わらないことを。「環境の世紀」——マツは身をもってそのことを教えてくれた。

町長メッセージ

活力ある紫波町を目指して

新年あけましておめでとうございます。

記念すべき二〇〇〇年、その幕開けを平穏に迎えられたことを皆様とともに喜び合いたいと思います。

さて、地方自治体は今大きな変革期を迎えようとしております。

地方分権社会の到来とともに、国の施策に追従してきた従来型の発想を転換し、自らが立案し自らが決定する自治体運営を進めて行かなければならない時代となりました。そうした意味で身の引き締まる思いを強くして新年に臨んだところであります。

引き続く厳しい財政状況の下では、優れた政策形成能力を持つ職員の養成に重点を置き、意識改革をさらに進めながら、今まで蓄積してきた英知を町民のために生かせるような体制づくりをしてまいりたいと思います。

また「環境」と「福祉」を主眼においた町づくりこそが、新世紀において紫波町に求められる重要課題であると確信しております。

紫波町では今、負の遺産を次世代に残さないためにも、「有機資源循環型社会」の構築をめざし、新年早々より具体的な展開に向けて計画を進めようとしております。

この計画に当たっては公募による推進委員会を組織し、委員の意見を採り入れながら進めており、町民の全員参加を基本理念としています。

町民と行政が情報を共有しながら、住みよい町づくりについて語り合える土壌を作り、全国に情報発信できる町づくりをともに考えることが今年の課題であると考えています。

本年も皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

（藤原　孝）

編集後記

◆新年あけましておめでとうございます。

大みそかにお弁当を買う水道事業所の職員らを見かけました。警戒のため待機した皆さん、大変ご苦労さまでした。2000年問題に揺れた平成12年の元旦、除夜の鐘を聴きながら電気が点いて、水道水が出ることを確認しホッとしたのは私だけでしょうか。たくさんの人に支えられていることを実感した年の初め。今年もよろしくお願いします。

（佐藤）

【皆さんからのご意見・情報をお待ちしています】情報は原則としてファックスか郵送でお願いします。
〒028-3390　岩手県紫波郡紫波町日詰字西裏23-1　FAX／672-2311　紫波町「紫波ネット」情報係まで
紫波町ホームページアドレス　http://www.town.shiwa.iwate.jp

【紫波ネット1月号】（平成12年1月10日発行）　発行◆紫波町／〒028-3390　岩手県紫波郡紫波町日詰字西裏23-1　TEL 672-2111
印刷◆川嶋印刷株式会社